

私の少年時代の疎開体験

岩田 侑三 さん

私は今年80歳になります。太平洋戦争末期は、国民学校4年生でした。その頃、兵庫県の尼崎に住んでいました。昭和19年7月頃より、京阪神地域でも、「警戒警報、空襲警報」が頻繁に出され始めました。学校では、国民学校児童を安全な場所に疎開させることを検討していたようです。集団疎開⁽¹⁾としては、日本海側の田舎のお寺など、縁故疎開⁽²⁾では、両親の生家や田舎の親戚などへの疎開です。

私は、その年の8月13日、母親の生家がある倉敷市東町（現本町 森田酒造西隣）に疎開することになり、祖父母、叔父伯母にお世話になることとなりました。旧国鉄⁽³⁾で甲子園口から三宮で乗り換え、4時間あまりをかけて倉敷に着いたように覚えています。

あまがさき むこ 倉敷市立武庫国民学校から⁽⁴⁾倉敷東国民学校に転入したのです。



倉敷東小学校（昭和10年頃）

当時は、夏休みでしたが、町内生徒と共に、手旗信号⁽⁵⁾・モールス信号⁽⁶⁾・訓練実習に努めました。現在とは違い、各家庭には兄妹も多く、みんなと仲良くなり、年長者から丁寧に教えてもらいました。良いことも悪いこととして一緒に遊んだもの

です。当時は、「いじめ」のようなことはなかったように思います。学校にプールなども無く、老松町の川まで泳ぎに行きました。

子どもたちは、着ている服に、住所・本人氏名・世帯主氏名（私は祖父氏名）・続柄・血液型を書いた白い布を必ず付けていました。町内の子どもたち皆で自宅から学校まで通いました。

祖父母の家に疎開してから、4年生の間は、学校で勉強もできましたが、5年生の5

月になると勉強どころでは無くなり、^{くわ}鋤を持って向山で⁽⁷⁾開墾作業をして、「サツマイモ」の植え付けが日課になりました。文字通り青空教室です。先生の監視も厳しく、懸命に作業に努めれば、国語の本を読むことができるが、怠けるといつまでも作業に努めねばならない制度でした。

戦争中は、^{あち}阿智神社前の北階段（現本町 森田酒造前）に向かって、一般市民はもちろん、通学中の倉商・倉工・倉女（現青陵高校）の生徒たちも自転車から降りて、「戦争に勝ちますように」と⁽⁸⁾合掌する毎日でした。

記憶では、当時鶴形山トンネルの中で学徒動員の生徒諸君が飛行機部品製造の作業をされておられたように思います。私たちは、下校時のみ、トンネル横の階段を利用し、観龍寺から井上家住宅経由で帰宅していました。

その年の6月17日から22日には、大高の農家へ勤労奉仕作業に行っていました。この頃、B29爆撃機が、何機も東に飛んで行くのを見て、幼心にも恐ろしくなり、畑の中から南の空を見た記憶があります。

岡山の空襲は、6月29日の深夜でした。私も防空壕に避難しました。早朝、東の空を見ると真赤であったことを今でも思い出します。祖父が「次は倉敷が空襲にあうかもしれぬ」と疎開先を検討してくれ、^{めく}総社や足守の親戚を廻ってくれるが、別の親戚も入居しており、7月上旬にやっと、^{ごう}総社町服部（現総社市金井戸）の祖父親戚にお世話になることとなりました。

疎開先は決定したのですが、交通面に問題があり大変でした。当時は客車が少なく、貨物車優先の時代で、伯備線の汽車に乗れませんでした。

そこで、倉敷の街から総社市の金井戸まで、数回徒歩にて祖父母と共にリヤカーで荷物を運びました。当時10歳です。到着するまで大変でした。歩いて何時間もかかり、7つ池での休憩は、何よりの楽しみでした。思い出してもよく歩いたものです。汽車が利用できても同じで、総社駅より東に約50分もの道のりを時間をかけて歩き、疎開先まで頑張りました。

倉敷東国民学校から⁽⁹⁾総社町立服部国民学校へと転入しました。真夏にて、勉強もそこそこで、短い期間でしたのであまり記憶がありません。しかし、夏休みの宿題の「干草」10貫目⁽¹⁰⁾割って提出するようにとの宿題には弱りましたが、8月の終戦により中止となり助かりました。当時は、「食べることと逃げることが合言葉」でした。

飛行機で沖縄へ飛び立つ⁽¹¹⁾予科練⁽¹²⁾特攻隊の志願者だったのでしょうか。当地出身者だったのか、村の上空を何回か旋回され、家族との最後の別れだったのでしょうか。最後に翼を左右に振られて飛び立って行かれる風景を数回見かけ、涙が出た記憶が残っております。

昭和20年8月15日の正午ごろ、隣の家で天皇陛下の玉音放送を近所の人とラジオにて聞いていたのですが、内容がわからず、皆さん泣いておられて、日本が負けたことを知らされました。終戦により、再度倉敷の祖父母の家に帰り、9月にはまた倉敷東国民学校に転入しました。

学校の教育方針が180度変わり、自由主義となり、先生諸氏も戸惑いがありました。教科書も軍国主義的な箇所は、次々と「墨」で塗り潰すのです。広島原爆投下の説明なども。そして、10月下旬に1年2ヵ月ぶりにやっと尼崎市へ帰郷し、母・兄に再会しました。学校も尼崎市立武庫国民学校に帰ったのです。結局この間に、尼崎・倉敷・総社の3ヶ所の国民学校を転出転入合計8回しました。

戦中・戦後にて、当時は、遠足も学芸会も運動会も無く、もちろん6年生の修学旅行も無かった時代でした。時代が時代だけに、教科書も十分ではなく、新聞紙同様の教科書でした。私の小学生時代はこの様な時代でした。

今思い返すと、71年前ですが、9歳から10歳のころ、このような経験をしました。その後社会に出て、苦勞もありましたが、当時のことを思い出し、忍耐力・協調性・健康には、人に負けないように頑張ってきた。今思うと、このような戦争の時代は二度とあってはならないと思います。

.....

- 1 集団疎開...集団で行われる疎開。特に，第二次大戦中の学童疎開をいう。
- 2 縁故疎開...親類や知人を頼ってする疎開。
- 3 国鉄...日本国有鉄道法に基づき日本の国有鉄道を運営していた事業体である日本国有鉄道の通称名。
- 4 倉敷東国民学校...現在の倉敷市立倉敷東小学校。
- 5 手旗信号...手に持った赤・白の小旗で一定の形を表して通信する信号。
- 6 モールス信号...短符号（トン）と長符号（ツー）の2種類の組み合わせによって文字を表し，船舶間の通信や海難事故の救助信号として利用された。
- 7 開墾...山野を切り開いて農耕できる田畑にすること。
- 8 合掌...両てのひらを顔や胸の前で合わせて拝むこと。
- 9 総社町立服部国民学校...現在の総社市立総社東小学校のこと。
- 10 貫目...重さの単位。1貫目 = 3.75 k g
- 11 予科練...「海軍飛行予科練習生」の略称。小学校高等科卒（乙種），中学四年修了者（甲種）を主とする志願制で，訓練を経て飛行科下士官となった。
- 12 特攻隊...特別攻撃隊の略。生還の見込みが通常よりも低い決死の攻撃，もしくは戦死を前提とする必死の攻撃を行う戦術部隊のこと。